

県体協「アスリート発掘事業」 修了生4人が五輪選手

16期目を迎えた県体育協会の「未来のアスリート発掘事業」から、今回の東京五輪で初のオリンピックが誕生する。県勢13人のうち4人が、小学生時代に同事業で心身を鍛えた。次代を担うジュニア選手にとって、富山から世界に羽ばたいた先輩の活躍が大きな刺激になる。

4人はバスケットボール男子の八村と馬場のほか、ハンドボール女子の佐々木春乃(26)＝富山市出身、サッカー女子の宝田沙織(21)＝立山町出身。

同事業は県内の小学5年生が対象で、能力に優れた人材を見だし、全国や世界で活躍できるよう育成。これまで約2730人が、筋力などを効率的に使うトレーニング法や心理学、栄養学、

けがの予防法などを学んできた。

参加当時から高い運動能力を発揮していた4人は、小学生のうちから幅広い知識を身に付け、その後の国際舞台を中心にした活躍につなげた。1期生の佐々木は「発掘事業の取り組みが私のベースにある。他競技の仲間から刺激を受け、自分の能力を自覚できた」と振り返った。

県体協は5日、県総合体育センターにある修了生を紹介する掲示板に貼られた4人の名札に花を付けた。老月守専務理事(64)は「五輪選手を輩出でき、うれしい。次に続く子どもたちに夢や希望を与える活躍を期待したい」とエールを送った。

(石川雅浩)



東京五輪への出場を決めた修了生4人の名札に花を付ける職員＝県総合体育センター